

⑫実用新案公報 (Y2)

平1-40833

⑬Int.Cl.⁴B 65 D 5/74
5/08
5/40

識別記号

庁内整理番号
B-6671-3E
Z-6540-3E
Z-6540-3E

⑭公告 平成1年(1989)12月5日

(全4頁)

⑮考案の名称 液体容器

⑯実 願 昭60-115780 ✓

⑯公 開 昭62-25623

⑯出 願 昭60(1985)7月27日

⑯昭62(1987)2月17日

⑰考案者 山田 均 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内

⑯出願人 凸版印刷株式会社 東京都台東区台東1丁目5番1号

審査官 天野 正景

⑯参考文献 実開 昭61-161216 (JP, U) 実開 昭62-76115 (JP, U)

実開 昭54-90326 (JP, U)

1

2

⑰実用新案登録請求の範囲

プランクスは、

イ 糊付パネル21、側部パネル22、前部パネル23、側部パネル24、後部パネル25を縦折目を介して順次連設し、

ロ 前記前部パネル23の胴部、頂部は下方から前部パネル23、折目f, g, hを介してそれぞれ注出口取付用孔29を有する傾斜板26、頂部折込板27、シール板28が順次連設され、

ハ かつ前記側部パネル22, 24は前記傾斜板26の両側に三角板30, 31を設けると共に、該三角板30, 31の長い折目j, j'から上方の折目1, 1'まで延びる折目m, m'、また折目1, 1'と折目m, m'の交点C, C'から折目gの両端に延びる折目q, q'および前記三角板30, 31の頂点E, E'から水平に延びる折目k, k'と側部パネル22, 24側端の交点D, D'まで延びる折目n, n'を有し、かつ上部に段差を有する帯状のシール板34, 35を備え、

ニ 前記イ、ロ及びハの構成を有するプランクスを四角柱状に形成し、シール板28と39, 34と35それぞれを合掌して一文字にシール後、前記頂部折込板27を前方に折り、両側に形成された三角形の耳部5, 6を両側に折り込み固定した傾斜壁を有し頂部が平坦な液体容器。

考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、紙を主材料としたプランクスを折り込んで形成した液体容器で、特には注出口付でしかも頂部を平らにした液体容器に関する。

(従来技術)

一般に、ジュース、牛乳、アルコール等の液体の容器として、紙を主材料としたプランクスを角筒体として、その角筒体の底部と頂部を折込んで

10 密封したものが広く使用されている。これらの液体容器としては、頂部を屋根型とした、いわゆるゲーベルトツプタイプと、頂部と平らにしたフラットタイプとがある。また、最近は再封可能などを目的として、予め穿孔された孔に注出口を取り付けた液体容器が開発されている。

(解決しようとする問題点)

上記ゲーベルトツプタイプの容器は、頂部が屋根型であるため、スタッキングが不可能であり、流通段階で余分のスペースを必要としていた。また、フラットタイプの容器は、そのままの状態では頂部が平らなためスタッキングが可能であるが、頂部等に注出口を取り付けると、やはりスタッキングができないという問題点があつた。

(問題点を解決する手段)

25 本考案は上記問題点を解消したもので、プランクスは、

イ 糊付パネル21、側部パネル22、前部パネル23、側部パネル24、後部パネル25を縦

折目を介して順次連設し、

ロ 前記前部パネル23の胴部、頂部は下方から前部パネル23、折目f, g, hを介してそれぞれ注出口取付用孔29を有する傾斜板26、頂部折込板27、シール板28が順次連設され、

ハ かつ前記側部パネル22, 24は前記傾斜板26の両側に三角板30, 31を設けると共に、該三角板30, 31の長い折目j, j'から上方の折目1, 1'まで延びる折目m, m'、また折目1, 1'と折目m, m'の交点C, C'から折目gの両端に延びる折目q, q'および側部パネル22, 24側端の交点D, D'まで延びる折目n, n'を有し、かつ上部に段差を有する帶状のシール板34, 35を備え、

ニ 前記イ、ロ及びハの構成を有するブランクスを四角柱状に形成し、シール板28と39、34と35それぞれを合掌して一文字にシール後、前記頂部折込板27を前方に折り、両側に形成された三角形の耳部5, 6を両側に折り込み固定した傾斜壁を有し頂部が平坦な液体容器を提供するものである。

(実施例)

以下、本考案を図面に示した実施例を用いて詳細に説明する。

第1図は本考案の液体容器の一実施例を示す斜視図であり、第2図は組立前の状態を示すブランクスである。本考案の液体容器の特徴は角筒体の胴部1で、その頂部2が平坦であり、しかも胴部1の一面に傾斜壁3を設けたもので、この傾斜壁3に注出口101等を取り付け可能としたものである。第1図の液体容器の組立前のブランクスを第2図を用いて説明すると、前記傾斜壁3を設ける部分を前面として、左より糊付パネル11、側部パネル12、前部パネル13、側部パネル14、後部パネル15が縦折目a, b, c, dを介して順次連設されている。上記糊付パネル11と後部パネル15とを貼着して、角筒状とその下方および上方を密封折込むことにより底部4および頂部2を形成するもので、該糊付パネル11と各パネル12～15の横折目e以下は通常の底部を形成するための底板16～20が設けられている。この各底板16～20の上方にはそれぞれ糊付片21、側板22、前板23、側板24、後板

25が設けられ、前板23は他の各板に比して高さが低くなっている。該前板23の上方には折目fを介して傾斜板26が設けられ、その上方には折目gを介して頂部折込板27、折目hを介して帶状のシール板29が順に連設されている。ここで該傾斜板26には注出口を取り付けるための孔29が穿設されている。次に該傾斜板26の両脇には、その両側縁b', c'を底辺とした三角板30, 31が前記側部パネル12および14内に設けられ、斜辺折目をi, j, i', j'とし、頂点をE, E'とする。また前記側板22と24の上縁折目k, k'はこの頂点Eを通り、この折目k, k'の上方には折畳板32, 33、その上方には折目1, 1'を介して帶状のシール板34, 35が連設されている。この折畳板32, 33は前記折目1, 1'の中点C, C'から点D, D', E, E', F, F'へ放射状に延びた折目m, n, q, m', n', q'により四つの三角形に区分されている。ここで折目m, m'、前記三角板30, 31の斜辺折目j, j'は一直線上とし、斜辺折目j, j'の端部を点H, H'とする。そして、折目m, nと折目m', n'の長さはm < n, m' < n'とする。また前記シール板34, 35には前記中点Cを通る小折目p, p'により2分され、その内側部分は前記

前部パネル13のシール板28と同じ巾で、外側部分は少し広い巾に設けてある。さらに前記糊付板21上方にも折目q, rを介して順次折込板36シール板37が連設され、後板25の上方にも折目s, tを介して、頂板38およびシール板39が連設されている。

次に上記ブランクスの組立方法を説明すると、前記糊付パネル11を後部パネル15に貼着した後、角筒体とし、第3図所望の手段で底部を密封し、形成する。次に前記小折目p, p'より横方向に広げて、対面したシール板28, 34', 35'、シール板38, 39, 35を貼着する。第4回次に頂板38と頂部折込板27を重ね、さらにこの重合部を頂板38が上にくるように折曲げると、前記三角板30, 31が側板22, 29の内側に重なり、傾斜壁3が形成され折畳板32, 33は第5図に示すように耳部5, 6を形成する。

次にこの耳部5, 6を下方に折曲げ側板22, 24上部に接着することにより成形が完了する

(第1図)。この時、シール板34, 35は段差があるのでその裏面の一部分を接着することも可能である。

ここで、上記実施例のプランクスとしては、主と主材料として、アルミ箔、合成樹脂等を積層したシートから打抜き、折目付けをしたものを使用する。ここで各折目の位置関係は、前記折目fの位置を決定し、前記折目h, h' と折目m, m' のなす角度をしたとき、前記折目m, m' と折目i, i' のなす角度をとしてF, F' を決定し、該F, F' を水平線で結び折目gが決定され、さらに折目n, n' も同様に決定される。

(効果)

本考案は、上記の如き構成であつて、頂部の平

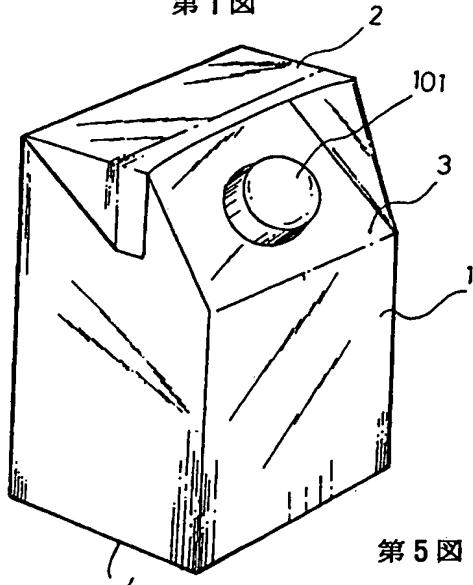
らな容器胴部の一面に傾斜壁を設け、この傾斜壁に注出口を設けることにより注出口が突出することがないので、流通段階でスタッキング可能なため余分なスペースを必要としない。

5 図面の簡単な説明

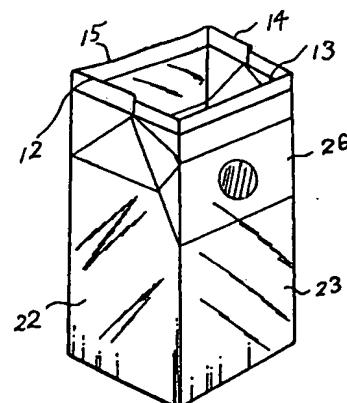
図面は本考案の一実施例を示すもので、第1図は液体容器の斜視図、第2図は組立前のプランクスの展開図、第3図～第5図は組立工程中の一部省略斜視説明図である。

1 ……胴部、2 ……頂部、3 ……傾斜壁、4 ……底部、21 ……糊付パネル、22 ……側部パネル、23 ……前部パネル、24 ……側部パネル、25 ……後部パネル、26 ……傾斜板、30, 31 ……三角板。

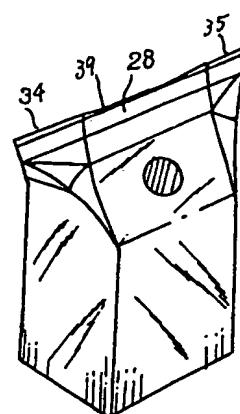
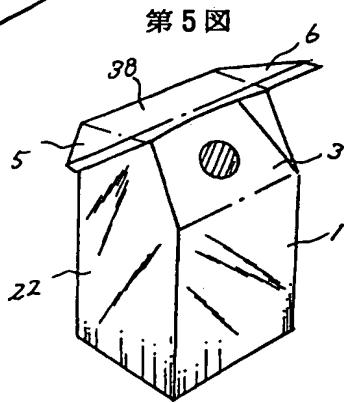
第1図



第3図



第4図



(4)

実公 平 1-40833

第2図

